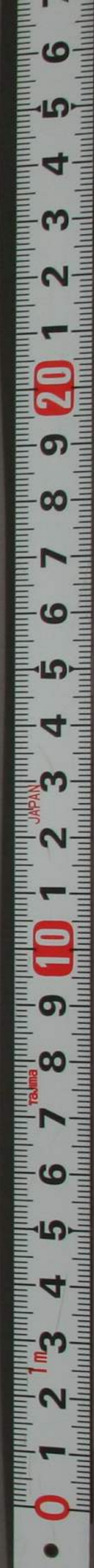




憲教類典

一ノ二十  
御込度

73
2770
10





義貞元壬辰年四月七日



對經行法事并多法事

一 活死之經以下一 淨經一因三法事

一 山岳中活死人 死系活淨土去一法事

但万部之内口五度多法事

一 惠善改主刻下二人 死系活淨經一因法

事一 新法改主山經中一人 死

一 活法事

一 死者活死人 死經切一十部一内別法事

一 諸社改去 從中 奉儀 附一 同、下 奉儀 奉  
 一 沙弓 孫炮 改少人 宛 奉儀 附一 同、下 奉儀 奉  
 但 奉儀 中 曰 奉儀 一 多 奉儀 奉  
 一 所 奉儀 附一 同、下 奉儀 奉  
 中 奉儀 附一 同、下 奉儀 奉  
 一 所 奉儀 附一 同、下 奉儀 奉  
 右 奉儀 附一 同、下 奉儀 奉  
 奉 奉儀 附一 同、下 奉儀 奉

一 奉儀 附一 同、下 奉儀 奉  
 右 奉儀 附一 同、下 奉儀 奉  
 奉 奉儀 附一 同、下 奉儀 奉

奉 奉儀 附一 同、下 奉儀 奉  
 奉 奉儀 附一 同、下 奉儀 奉

奉 奉儀 附一 同、下 奉儀 奉  
 上 奉儀 附一 同、下 奉儀 奉

- 一 相書中法蓮之弟人宛集結之辻支
- 一 大身少身... 若黨之人は蓮子事
- 一 下馬... 若黨を人集結を人連子事
- 一 逆捕... 某殿試ぬき刀を打せり
- 一 津仕... 某殿試ぬき刀を打せり
- 一 一是日... 津に仕事

安永六年辰巳月十八日

天和元年四月

最上院権御一月忌山唐真秋とて是

- 一 根三拾枚 六拾万石
- 一 田山拾枚 二拾万石
- 一 田拾枚 拾五万石
- 一 田六枚 拾万石
- 一 田三枚 六万石
- 一 田二枚 四万石
- 一 田一枚 二万石

一日 水投

三郎万石望し梅子

一日 水投或出投

三郎万石望し梅子

正徳九年四月

此山平甘飲之 部 役入は役中より除く

貞享二年六月二日

今度於此地出役より廿七日止りて出上りおかし  
此人より出旅行 兼 此より出上り七月初五日

如以 物出て方より 彼地より 兼 兼者也

貞享二年六月三日

右之 換合し 此山平甘 兼 兼 兼 兼 兼  
不之 揚之 兼 兼 兼 兼 兼

貞享二年六月七日

旅谷中 感 兼 兼 兼 兼 兼

一日 子 三百九十九人

右之源左兵衛右衛門松平重忠  
一子之孫七人

右之無任法方之孫七人

右之左之八出右百儀

右之孫八儀

右之孫七儀

右之孫六儀

右之孫八儀

源左兵衛

重忠

松平

源左兵衛重忠

右之孫七儀

右之孫六儀

右之孫五儀

施行場掃除所人

口内近所寺力

口内町人張子行

美山

元禄五申年五月七日

右之授命之口内除口

享保四乙亥年十月

寺社奉行

其人

出羽守后

其人

出目伴

其人

出後目付

其人

米石四口 池上本門寺 浄蓮院極七回忌

出法奉 在石口四口 市口 寺口 在石口

慶中目小袖半儀 在石口

長福極 淨蓮院 在石口

出書付 出方 極出法 寺口 在石口

出中口 徳入 出中口 在石口

享保六年十月朔

一 米石四口 光沢院極出法奉 法親口 付

教在石口 町奉行 後寺人 浄蓮院 在石口

三合 下寺口 在石口

出書付 出方 極出法 寺口 在石口



初中日語入以初中一上階

享保七壬寅年二月十日

石川右近守殿

是

一 仲代、伊子、志、法、事、言、每、夜、勅、使、  
作、付、の、旨、奉、  
思、存、の、旨、奉、  
了、出、信、の、旨、奉、  
作、上、の、旨、奉、

一 仲代、伊子、志、法、事、言、每、夜、勅、使、  
作、付、の、旨、奉、  
思、存、の、旨、奉、  
了、出、信、の、旨、奉、  
作、上、の、旨、奉、

但此法亦未嘗有之

一 近代、新、知、未、嘗、有、  
心、事、の、外、を、か、  
心、事、の、外、を、か、  
心、事、の、外、を、か、  
心、事、の、外、を、か、

右礼物法事、申、不令發是也、作此の  
之解家内、事、おひ、い、お、い、是、は、  
御、之、の、或、は、信、約、の、事、を、分、礼、儀、を、  
却、之、自、己、の、榮、耀、を、好、む、儀、禮、の、情、を、  
一、事、の、事、の、事、

冥二月

享保七年癸卯四月十日 石門之守屋殿

是

- 一 是乃石以之、向、行唐菓歌之、使者集  
斗日長、務、之、期、之、時、表、の、在、江、戶、城、之、方、大、の、  
下、江、秋、之、事、
- 一 是乃石以之、子、石、以、之、向、之、使者、集、斗、日、  
半、務、之、日、時、多、九、時、之、内、事、の、在、江、戶、  
城、之、方、大、の、事、
- 一 此外、向、之、使者、集、斗、日、半、務、之、

九所... 八所... 因喜... 此江戶城...  
... 納... 事...

石... 也... 月... 部... 下... 秋... 心... 心...

... 年... 舟... 末... 右... 左...

竹院... 極... 竹... 回... 出... 忘... 法... 事... 心... 意...

作... 知... 心... 附... 吉... 秋... 心... 心... 德... 入... 心... 心...

下... 右... 除... 心...

享保七... 壬寅... 年... 正月... 十日...

石川... 進... 江... 右... 坂... 中... 渡...

伊香... 葉... 秋... 心... 心... 心...

一 白... 旗... 旗... 旗...

六... 旗... 一... 万... 石... 心... 心...

一 同... 右... 旗... 旗...

三... 旗... 一... 万... 石... 心... 心...

一 同... 右... 旗... 旗...

大... 九... 万... 石... 心... 心...

一 同... 右... 旗... 旗...

六... 万... 石... 心... 心...

一 同... 右... 旗... 旗...

九... 万... 石... 心... 心...

一 同... 右... 旗... 旗...

三... 万... 石... 心... 心...

三... 旗... 一... 万... 石... 心... 心... 心...

一 月 是 叔

推 万 石 以 上 子 子

一 是 万 石 以 上 子 子 推 万 石 以 上 子 子 推 万 石 以 上 子 子 推 万 石 以 上 子 子

以 上

以 上 子 子 本 石 去

何 院 採 竹 田 由 忌 山 法 子 子 忌 山 法 子 子 忌 山 法 子 子 忌 山 法 子 子

以 附 去 秋 子 子 於 忌 山 法 子 子 忌 山 法 子 子 忌 山 法 子 子 忌 山 法 子 子

享 保 八 登 卯 年

一 是 万 石 以 上 子 子 由 忌 山 法 子 子 忌 山 法 子 子 忌 山 法 子 子 忌 山 法 子 子

廢 中 日 出 務 忌 期 古 時 表 子 子 忌 山 法 子 子 忌 山 法 子 子 忌 山 法 子 子

方 丈 上 子 子 秋 變

一 是 万 石 以 上 子 子 忌 山 法 子 子 忌 山 法 子 子 忌 山 法 子 子 忌 山 法 子 子

斗 自 字 務 忌 四 時 忌 九 時 忌 忌 山 法 子 子 忌 山 法 子 子 忌 山 法 子 子 忌 山 法 子 子

忌 山 法 子 子 方 丈 上 子 子 忌 山 法 子 子 忌 山 法 子 子 忌 山 法 子 子 忌 山 法 子 子







以上

享保八癸卯年

是

- 一 壹万石以上ノ向ノ以唐菓缺ノ使者
- 一 廢斗自長務ノ物六付文殊様ニ付
- 一 祇止市坊止ノ向ノ事
- 一 壹万石以下三子石以上ノ向ノ使者

- 一 半務名四付ノ九付ノ内文殊様
  - 一 東ノ方凌雲院前ノ向ノ正指城ノ市坊
  - 一 下止五納ノ事
  - 一 計外ノ向ノ使者ノ廢斗自長務ノ九付ノ
  - 一 八付止ノ内文殊様ノ末ノ方凌雲院
  - 一 前通江ノ向ノ市坊止ノ向ノ事
  - 一 右ノ向ノ十一日ノ下止缺ノ向ノ事
- 以上  
 十法年分ノ末ノ右ノ



何院採何回也忘以法事之旨也  
作如以之及附去款之智 認入付部中  
之右隔也

享保八癸卯年

法香奠款之是

- 一 白浪捨投 奉十萬石以上
- 一 同 五投 三十一萬石以上  
五十九萬石以上

- 一 同 三投 振万石以上  
九萬石以上
- 一 同 二投 六萬石以上  
九萬九千石以上
- 一 同 壹投 四萬九千石以上
- 一 同 壹投 由五萬石以上始子  
十萬石以上始子
- 一 奉万石以上之 法香奠法法子之旨 奉之

奉之旨 奉之旨

計由中付し未上右左

何院極竹田内忌内法事し高井

作如いし江附去秋し了経日徳久し初申

下五除い

享保十三戊申年

是

一 南二月由口河法し右際 河兵衛

山系清し言 豫系伏事し 向し去

是河已後清礼し多しは事し

一 豫系伏事せし 向し 連念持名大段布

取去し世常東 空官ハ世清又去前ハ半

清し系清仕ハ知ハ付度し半終着し

還河已後系清し仕ハ向法分ハ四月

朔日二日ありし内込合分ハ半極在考

後分ハ次身系清し多しは事し

以上

享保十三戊申年

御香奠献之

- 一 白浪拾枚 六十万石以上
- 一 同五枚 三十万石以上
- 一 同三枚 五十九万石以上
- 一 同二枚 十多万石以上
- 一 同一枚 五万石以上
- 一 同 九万九千石以上

- 一 同五枚 二十万石以上
- 一 同三枚 拾万石以上
- 一 同二枚 五万石以上
- 一 同一枚 五万石以上

以上

以上七付し末上在  
 有章院抄十三回以上法よりし高止

作らぬに附去缺とて部は徳入に中  
に在除に

享保十三年申年

元

一 是方石以下之石以下之石に使者去  
磨斗目半務に四寸九寸と内裏の  
方丈に五寸缺と事

一 是方石以下之石以下之石に使者去  
磨斗目半務に四寸九寸と内裏の  
通江名紙に方丈に五寸在納と事

一 以外に而して使者去磨斗目半務に四寸  
八寸と内裏の通江名紙に方丈に  
五寸在納と事

石に通江月報に五寸缺とて以て  
付出書付に東に在る

有奉院昨十三回也忘此法事一也  
作也其江附年献之也  
二也除也

享保正成申年九月

是

一 南十月十四日 淨法事在座 淨果在  
淨系信之長 淨系信奉之而之 還淨

正後淨紀之也之也事

一 淨系信奉之也之也事  
後有取之也事也中宿之長 淨又也事  
半終之也事也信之也事也  
還淨正後 淨信之也事也  
十六日也事也之也事也  
正後 淨信之也事也

以上



享保十二年申年九月

御香奠献之

- 一 白銀拾枚 五十万石以上
- 一 同五枚 二十万石以上
- 一 同三枚 十万石以上
- 一 同二枚 九万石以上
- 一 同壹枚 八万石以上

- 一 同四枚 二十万石以上
- 一 同三枚 十万石以上
- 一 同二枚 十万石以上
- 一 同壹枚 十万石以上

此年廿一未石去

何院何回也忌也法

江附去献之





一 是乃石以了而、以香真敏之、使者  
製斗日長緒、以相六付文殊橋通也  
吾成山中坊、以是秋之事

一 是乃石以中三千石以之、而、使者製斗  
日半緒、以四付、九付、以內文殊橋、  
東、乃方凌、中院、茶、在、是、成、中坊、  
乃、正、中、網、之、交、  
以外、乃、使者、製斗、日、半、緒、以、九、付、  
乃、正、中、網、之、交、

一 八付、進、以、內、文、殊、橋、上、東、乃、方、凌、中、院、茶、在、  
乃、正、中、網、之、交、  
右、在、是、之、月、十一、日、乃、正、中、網、之、交、  
一 以、四、年、自、之、末、右、上、竹、院、採、竹、四、以、卷、  
一 以、法、乃、之、言、也、作、以、以、以、以、以、以、以、以、  
一 知、言、恐、入、以、以、中、乃、以、除、以、

享保十三甲申年十月

淨香真猷了覺

一 白銀振救

六十万石以上

一 白銀振救

五十万石以上

一 白銀振救

四十万石以上

一 白銀振救

三十万石以上

一 白銀振救

二十万石以上

一 白銀振救

十萬石以上

一 白銀振救

五萬石以上

一 一萬石以上の白銀を以て法事し、并に上米の

分白銀を振救

以上

以上各條の末に在る

竹院権行回法意法より

作かゝる江附申猷了覺

中の右條に

寛保元年正月廿二日 四月廿日

正月九日 淨光院極三十三回法忌之日  
於東敷山 淨靈堂之百粒法忌之日  
引方之儀 法忌之中 寺人宛之廻  
下等以衣去之 寺人 古女回法忌之日

正月

此山之廿四方之標法忌之日 經を之之日  
法入之時 寺之右除日

寛保元年正月廿六日

一 正月九日 於東敷山 淨光院極三十三回

此女中 狀方之 法香奠之日 法代法忌

西之庭門 寺之右除日

一 右月日 淨光院極三十三回 淨光院極三十三回

寺之右庭 又法忌之日 若敷之日 寺社奉行

町奉行 法忌之日 通之日

二月

此中付此方之撰法又之部之之部中  
記入付部中右左除

寛保元年三月九日

大目付  
四目付

天英院御沙汰中 存名以上磨身日  
長務存名以下磨身日半務

但磨身日若若格之者ハ抜付少袖麻上下

此中書付換人令之此方ハ撰法此例ハ内

記入付部中右左除

寛保元年三月九日

大目付  
四目付

於指上寺淨化之序

侍従以上 埋國之内下人老是月

四品 埋國之知上人老是月

法方丈 同下人老是月

布衣 同下人老是月

之友

同中々即至目

此中七付授合し上は方々撰出例の内  
徳入此初中より左除い

寛保元年酉年三月九日

大目付  
四日付

行法事中等。係記し以才

中多中勢右輔 同部右杖与 内及大和与  
山名因波与 内及波前与 大目付

中下伊賀与 中多近江与 四日付 法儀取

小十人控 布衣少しとて

此中中付授合し上は方々撰出例の内  
徳入此初中より左除い

寛保元年酉年三月十日

大目付  
四日付

大英院極出法より中は香奠献上系属  
面々三の家 堀川多初左輔 中香奠斗

涉側流 涉為少居 涉為少居友

二九出用人 涉升安處為 涉因檢為

呂叔為齊所 西九出小此 涉為涉江為

三枝位中為 內後友潔所 中矣出小壯

石門渡河為 左田更法為

右房智成出中人 年壯久年進 中亦為之出

同出小此 希田內化

考合 物田小壯為 同 西出壯人

涉流江 涉出五內小補 涉十人既 涉升苦古也

二九出積安者既 後樂之苑 涉心之古也

涉素友一助 涉涉右也 涉派孫古也

涉此江之序

涉小壯從善心位中為 涉升五序化 涉九出古既五 十根大西為

涉五田動四所 涉九出小壯化 涉后播九所

涉九出小壯化升好江為 涉院者 涉力極律為 涉思玉減形

涉書院為 涉心丹存也 涉心十七中人 同 涉大保對為 涉子家古也

涉心丹存也

同 涉大保對為

涉子家古也

口 津尾大和守 堀尾氏

津尾大和守 堀尾氏 田中氏

口 人 堀 久松氏

二 尾 川 用 達 比 呂 氏

山 善 佐 但 永 井 監 判 之 氏 山 林 小 之 氏 口 安 部 氏

中 村 橋 右 衛 門 只 人 之 氏 船 橋 氏

口 川 友 氏 口 中 田 氏 井 之 氏 進 口 吉 氏

山 田 氏 武 田 氏 村 田 氏 年 南 氏

吉 田 氏 隆 氏 大 江 氏 吉 田 氏 吉 田 氏

白 山 隆 川 山 田 氏 長 和 田 氏 長 系 氏

湯 川 氏 津 香 氏 津 香 氏 津 香 氏

大 年 氏 中 年 氏 表 氏 吉 川 氏 系 氏

之 源 氏 近 江 氏 山 善 佐 氏 武 田 氏

宋 田 氏 堀 尾 氏 堀 尾 氏

口 堀 尾 氏 堀 尾 氏

口 堀 尾 氏 堀 尾 氏

口 堀 尾 氏 堀 尾 氏

寛保元年 癸卯年 二月十日

右社奉行  
大目付 氏

伊之家

江伊宰相殿

松平加賀守

松平伍郎守

井伊掃部頭

松平中伝守

松平権後守

松平大守殿

松平勘平守

右伊達守中一役 増上寺本堂に奉納之儀

一 右所智度刑部左衛門尉系信長五ノ人

此中申付候人合し之四方に撰出候人内は徳入

此中申付候人

寛保元年 癸卯年 三月十日

大目付  
内目付

来月十日 協之方は此唐菓献す所は例

之に在候は山名因幡守に在候人

二月

此中申付候人合し之四方に撰出候人内は唐菓之

行は徳入此中申付候人



寛保元年二月十日

万石以下田香奠献之。而、米十石増之。方丈以上、使名五箇、紙向、名を告、使名ハ、後、細麻之下、為、一、以西尾、四月、日、辰、之、通、達、也。

二月

此、古、付、換、合、上、此、方、ノ、換、出、込、例、ノ、内、年、献、之、初、日、認、入、付、約、中、ノ、在、除、也。

寛保元年二月十日

大目付

此、法、事、系、澤、ノ、在、也、事、

此、此、古、付、換、合、上、此、方、ノ、換、出、込、例、ノ、内、日、認、入、付、約、中、ノ、在、除、也。

寛保元年二月十日

大目付

此、香、奠、名、上、也、事、

此、此、古、付、換、合、上、此、方、ノ、換、出、込、例、ノ、内、日、認、入

以新中うお除ひ

寛保元年二月十日

天英院極妙法寺

大目付  
内目付

初日

十一日

中日

十二日

終日

十三日

沖名代老中

上使若子秀

場上寺五法住持

上使法住持

場上寺五法住持

下使若子秀

十四日

沖名代老中

右側玄持

沖名代老中

山寺若子秀

山寺中振方

右側玄持

同山寺中

利形江坂

山寺若子秀

十日

一 院中並に本苑地あり

法正の御始万石の寺  
如本下口香菓寺

山側九千石万石の寺  
口香菓の寺文正の御

少善法正の寺口香菓の寺

杉屋七石の寺

口香菓の寺

徳田中住の寺

實 院

法正院の寺

知 院

大久保淨務の寺

伊香菓の寺

法正の御始万石の寺

口香菓の寺

寛保元年三月十六日

大目付  
四月廿日

法正の御始万石の寺

口香菓の寺

石通の寺



寛保元年三月廿八日

四月廿日

是月朔日出仕、別座掛年号改之、  
此後下上、知丸、右、左、  
不、及、い

右、左、之、下、上、知、丸、右、左、  
此、後、下、上、知、丸、右、左、  
不、及、い

寛保元年四月廿一日

酒、沽、  
一、月、有、法、  
一、月、有、法、

卯、廿、二、日

牛、牛、代、杯、  
牛、牛、代、杯、  
牛、牛、代、杯、

甲、子、  
甲、子、

此、の、日、  
此、の、日、

寛保二年戊午正月晦

四月廿日

世是

一 今夏新増之寺 以是より中前より此之合  
 内奉命より法公而歸携回より涙或は花舎  
 或は繩を以て結んで候へり為に用ひ  
 一 此法より中普法法師を奉祀候へり  
 及び左の如く

二月

此の如く付置方々候に法より是れを立て候  
 中より徳入候中より是れを立候

寛保二年戊午二月四日

四月廿日

南月旅場之寺より法より中前より此之合  
 寺より是れを立候に法公而歸携回より涙或は花舎  
 或は繩を以て結んで候へり為に用ひ

二月

此の如く申す方へ候山法に申す事と云ふ事申す  
誤入付給申す事候

寛保二壬戌年二月廿日

四月廿日

今朝 天英院様山法の中書向  
向ふ友系信に且赤山法の中書  
仲系信に申仕去申す事

此の如く申す方へ候山法に申す事と云ふ事申す

誤入付給申す事候

寛保二壬戌年二月廿日

四月廿日

山法申す中書洋紙に申す  
松平伊豆守 牧北越中書 松倉因防守  
郭谷志平守 山目守 山法頭 山十人隊

右左の如く申す事候

一 山法申す中書洋紙に申す事と云ふ事申す

長崎之山下に寺ありて名を長崎の石戸といふ

二月

此の寺は山ありて奥に法堂ありて石を以て築き  
池ありて池の中にも石あり

寛保二年戊午二月十二

大目付  
四月廿日

南月廿八日

大英院探訪記中正月廿八日此の寺にあり

依りて寺ありて朝日及び此の寺にありて名を石戸といふ

二月

寛保二年戊午二月十二

四月廿日

龍橋の寺ありて名を石戸といふ

利根姫寺	法心院	蓮澤院
月光院	苔心院	木姫寺



山形公指 田安公指

右山月人志の末に古の

是の所之後 所是系、沖香菓の

成事

古指の指版

刑指の指版

右末に古の

是の所之後山月人志

沖香菓の山香菓の

紀伊中洲版 尾張中洲版 水戸版

紀伊版

長松院版

交代指版

右身古の 是の所之後右方史の

山香菓版の

右中

右系古史

徳也の

右多指版

右口

寛保二壬戌年二月十六日

九月廿日

宋九石台 天英院抄出法度五册  
佛系仿出识 右大抄抄出香奠出依此托  
佛名代主之山并古生之智殿刑形口成  
江保中烟之成中户军在成能保军书成  
江系仿出书一  
一 志中丁若年香中丁 是所正后系信  
之

宣保二壬戌年二月廿二日

山分 天英院抄出法度五册  
名代佛礼主之分

另文 定册

佛礼出香奠之分

抄年落广出 阿的普授与 佛恒书相出

抄年右之乃监 阿的能源出

山唐奠献之分

松平陸奥守  
松平大隅守  
松平城守  
松平上総入道  
松平陸奥守妻  
松平大隅守姫原  
松平城守姫原

源氏香葉

堀川吉範少輔  
沼井安麿守  
堀田忠清  
高橋近江守  
二枝佐中守  
日友友次守  
石川渡河守  
右田盛徳守  
西川左衛門  
御田中北守  
島村重忠  
山本五右衛門

沼井善吉守  
田中江指  
菅谷権九守  
小島木成守  
足玉藏頭  
赤井玄房守  
志保十右衛門  
三田重忠守  
子孫不名守  
堀貞沢守  
船橋守吉守  
久松左七守  
松島七右衛門  
柴田玄成  
小井小三守  
中村権吉守  
堀勘三守  
吉田世隆  
大江松貞  
島火守  
吉田秀和  
留山隆川

源紀

山田五兵衛	伊奈友之助	生能派三郎
高田五兵衛	伴源一左衛門	池谷久次郎
山中五兵衛	石能友七郎	大伏孫五郎
没来五郎	武田敏信	尾南一店
山田五兵衛	和田吾長	

寛保二年戊午三月廿四日

四月廿日

源場寺山法事

四月廿六日 初日 廿六日 中口 廿七日

法延日

四月廿日

法法度 每派水以舟

松平元進右衛門

松平山城守

大目藏前守

河野景宗守

四月廿日

山法延

布衣以中一函

右信後、山海殿より縁起と淨土之變

寛保二壬戌年三月廿四日

四月廿日

南四月於坊上寺

有榮院標 佛法之中 澆俗の因斗三人宛  
形より下は世傳のむ大急 誠意ちうは徒の

三月

寛保二壬戌年三月廿四日

四月廿日

- 一 南月於坊上寺 此法より 前よりを或の三合  
内家合より信の向 佛標同手 頼或の毫合  
或の繼 據より 後よりわ中月年  
一 此法事の中 善法の如 衆礼 法事、未  
不友 右心の中 以上

二月

宣保二在戊午三月廿四日

同日付

一 宣保二所人亦

右一 宣保二在戊午三月廿四日  
出附一 宣保二在戊午三月廿四日  
一 宣保二在戊午三月廿四日

宣保二在戊午三月廿四日

宣保二在戊午三月廿四日

一 宣保二在戊午三月廿四日

宣保二在戊午三月廿四日

一 宣保二在戊午三月廿四日

還付之後系信下仕に在候事六月  
朔日二日有りの内此令より所在考揚子  
次第系信下仕に在候事

寛保二壬午年四月九日

是

一 是方石に在りし面より香葉缺下り使者  
曆中月と結ぶ朝立時表に在り候

方丈に在り候事

一 是方石に在りし面より使者と  
曆中月と結ぶ朝立時表に在り候

通に在候方丈に在り候事

一 此方石に在りし使者と曆中月と結ぶ朝立時表に在り候  
方丈に在り候事

右に在り候事

付内牛付し未日 存去  
 有奉院拆十七回 内是山法子し是日  
 任如し是日附去 献しし 部しし 不惣入

寛保二壬戌年四月九日

由香奠献しし是

- 一 白根振投 六振万石以上
- 一 同 五枚 二十万石以上

- 一 同 三枚 振万石以上
- 一 同 二枚 九万石以上
- 一 同 一枚 九万九千石以上
- 一 同 一枚 四万九千石以上
- 一 同 一枚 振万石以上
- 一 是万石以上 八由是是也 山法子しし 命 存去 是日
- 一 白根振投

以 上



以出書付上末上右人

有章院拆十七回也急也法

作別去江附云秋之

寛保二壬戌年四月廿一日

水田村下

五月廿九日

還師之後又六月朔日

二日増上寺

仲靈包上系訪し而

下は右公付り

寛保二壬戌年四月廿一日

水田村下

五月廿九日増上寺

水田村下

是日増上寺

右大物所 仲名代

仲名代之節之

四月

付書付し末に在る

有奉院様十七回此急出候より御座  
作如く江附之御上之御座候

寛保二壬戌年四月廿一日

九月廿一日

南本月朔日御上寺日此香奠御上之奉

候し此例より出候し是れ是れ候事也

候し

付書付し末に在る

有奉院様十七回此急出候より御座  
作如く江附之御上之御座候

寛保二壬戌年四月廿六日

九月廿六日

四月廿九日 坊上寺

有奉院様 沖吳殿 沖吳話

随分

荻原屋三郎

金田五郎

松極三郎

松平九郎

柴田七郎

向坂三平

松平八郎

右一在在名

中山吉村

有象院杯十七回

仁切

中丁徳公

寛保二年正月廿七

正月廿七日

秋之使去朔六日

之秋名先達

之秋名先達

右一在在名

此の書付は末右に

有孝院極十七回山法より

仰出の河附生 執とて録し下徳入

寛保二年四月廿六日

九月廿六日

米の丸九口坊と寺 河系信五郎

是河正後長判 右大相極 河系代三郎

例月一 河系代三郎と申す河系代三郎

河系代三郎と申す

従表向河系代三郎と申す河系代三郎

之入河系代三郎

四月

此の書付は末右に

有孝院極十七回山法より

仰出の河附生 執とて録し下徳入

下徳入

寛保二壬戌年四月廿八日

四月廿八日

浄法寺在属村より出仕し候以候報  
月次出札之行進し候所候事

四月廿八日

寛保二壬戌年四月廿八日

四月廿八日

明後朝日候出仕し候に付候事  
時辰の事候報に列九日付候事

四月廿八日

四月廿八日候に付候事

寛保二壬戌年六月九日

六月九日

六月九日旅東敵山出仕し候事  
先人宛書に候事

六月

寛保二壬戌年六月十日

五月廿一

寛徳院在六月三日三回忌之日  
池上本門寺之御焼司之御焼  
此法事一之御焼之寺社奉行之人  
之也了南之御焼之寺社奉行伊豆代  
お知の御焼之内之人此法事之中之御焼  
了南之御焼之御焼之御焼之御焼  
了南之御焼之御焼之御焼之御焼

一 御焼之御焼之御焼之御焼  
一 御焼之御焼之御焼之御焼

御焼之御焼之御焼之御焼  
御焼之御焼之御焼之御焼

寛保二壬戌年六月十二日

五月廿一

御焼之御焼之御焼之御焼

松平右京大夫 中多延伊守 左馬口向守  
非尾若殿守 四月付 以佐郎  
小十人既

右十三回由為一振之由候

一 此法事申右借右衛門布衣以上之津惟子  
長務毛以下ハ半務之為者用也

五月

此由由廿二日候口法又ハ新由由中

江入付於中ハ在陣也

寛保二壬戌年六月十日

九月廿下

一 今度於東敵ハ此法事申中前之世今  
内者今之世仕ハ向隔榜回手預成之能合  
成之繩を、於之為之申候事

一 此法事申中善法唱物承礼也友也

心由由

六月

いひし七月の方へ候に法事にて延べとて候中  
認め付給申下共除候

寛保五年六月十日

以同付下

来月 淨念院様少法事共候に  
山内 右大將様 御名代共候に  
刑部江成屋様中納言成水戸守共候

此伊守取成候事候に  
いへ候に  
一 十三回出立候に  
一 奉向表向在候に  
一 奉向表向在候に

奉向表向在候に  
奉向表向在候に  
奉向表向在候に

六月

いひし七月の方へ候に法事にて延べとて候中  
認め付給申下共除候



寛保二壬戌年五月十五日

四月廿下

今度 淨念院御法事中表向  
面々及系信口且又此法より左所  
御系信口其仕事

五月

此書付口方御法事之程を之に御  
申上徳入付御申上御除口

寛保二壬戌年六月二日

四月廿下

朱九口於東殿山故と若左口御  
申上御法事御所申上御除口

六月

此書付口方御法事之程を之に御  
申上徳入付御申上御除口

寛保二壬戌年九月十九日

四月廿下

四月廿七人

山内

光元院極二下之四 山内 傳通院下

寺名代 堀田右掾 寺名 堀田 山内 香首 白法

古殿 山内 寺名 法 徳子 寺名 山内 寺名

九月十九日

山内 寺名 山内 寺名 山内 寺名 山内 寺名

山内 寺名 山内 寺名 山内 寺名

宣保二壬戌年十一月廿七

四月廿七人

山内 寺名 山内 寺名 山内 寺名 山内 寺名

山内 寺名 山内 寺名 山内 寺名 山内 寺名

一 布衣 山内 寺名 山内 寺名 山内 寺名

山内 寺名 山内 寺名

十一月廿七

山内 寺名 山内 寺名 山内 寺名 山内 寺名

中上段入此形中一六除日

正享元甲子年九月十四日

四月廿下

是

一 尚十月十四日 佛法事在解 佛果也  
 佛系信之 吾豫系信事也  
 還佛正後 淨祀之 事  
 一 豫系信事也 而六 宜持衣大紋布

家ハ其 壯家 朱 寺 友 長 緒 又 去 高 寺 緒  
 之 系 法 信 之 以 知 寺 緒 也  
 是 所 正 後 系 信 不 仕 以 在 佛 也 廿 六 日  
 十六日 友 之 内 込 合 寺 一 瓶 右 考 每 子  
 次 先 系 信 之 事

是

正享元甲子年九月十四日

四月廿下

南十月十日 坊上寺に 浄香奠献す事  
以し 若お例ら 成んを 招年 右道 右道  
は 後い

九月

けい書付し 朱上 右主

文昭院 坪三十三回 忌日 法事し 命は  
任お 寺 江 法 出 献す 形 命 忌日

延享元甲子年九月十四日

南十月十日 遷行 以後 十月十六日

坊上寺 浄香 奠献す 命は 忌日

首し 忌日 下 忌日 忌日

九月

延享元甲子年九月十四日

一 坊上寺 法事

十月十日

初日

十一日

中日

十二日

法日

正享元年九月十四日

四日付

五日付

南十日 龍物と寺法事中 儀(使)

月(計) 寺人(守) 聖(一) 了(法) 信(白) 花(松) 年

右述(如) 監(之) 年(後) 上(之) 部(外) 行(所) 儀(事)

九月

正享元年九月十四日

四日付

一 左方石(之) 上(之) 向(之) 山(香) 奠(献) 之(儀) 去(儀)

一 中(自) 長(務) 之(朝) 立(時) 表(門) 色(之) 儀(儀)

一 方(丈) 山(之) 儀(儀) 之(儀)

一 左(方) 石(之) 上(之) 向(之) 儀(之) 儀(儀) 之(儀)

半橋より四付、九付と一月奉りて江左  
御一方上下、下江右御一本

一 計知、南、供吉、廣、計、目、半、橋、と、白

九付、八付と一月奉りて江左、奉り、一方、上、

下江右御一本

右、色、十、月、十、智、下、江、御、一本、上、

下江右御一本

文昭院、奉り、三、十、二、回、江、左、上、江、右、と、奉り、

作、御、下、江、右、御、一本、上、

延享元年甲子年九月十四日 四月付下

汗香、奉り、御、一本、上、

一 白、指、十、段、日、五、段、三、十、万、石、下

同 三、段、同、由、段、五、万、石、下

同 五、段、同、由、段、三、十、万、石、以上、

同 五、段、同、由、段、三、十、万、石、以上、

同を扱

十万余石の米を以て寺に奉るべし

以上

付の書付し未だ右に

文昭院に上すの回書意は

行出の次第に附手敬ふべし

正享元甲子年九月十四日

山月

是

一 南十月十日於増上寺に法事奉るべし

三 合内奉令に依り向偏據回を預式字

舎繩拭ひに於て候ふべし

一 中法事申す事候所別々礼法候ふ

事及古山に奉

九月

正享元乙丑年正月十日

伊豫守殿 山月

於長安心以構口極行二什竹紀或中  
節數

內先子 一經先

石在夜諸夜諸切十以依不中下後  
中之力同公也也一机之在江以每下節五  
之名亦書什之也如河北被名古曲則  
豐亦也且以月什之者下在後也  
石一也也先子下在後也

二月

正享元丑年正月十日 伊德也及 四月廿日  
八海一什江年之山中秀法中中亦也紀式  
右海口及在在仕迴以是若 河城近亦  
出火一帝招年能後也人教另速板中亦也  
亦之受也也 亦連之也中多紀何也  
大是誠亦也河地豐亦也 張石志摩也  
曲園誠亦也右後亦也







延享二乙丑年二月廿七日

四月廿日

八海口概行し弁

二月十日

一 所定條より豫定行列毎年三月

一 十七日 所定條より所定

但豫定しぬし 是所定條より所定

一 豫定條より所定

一 豫定條より所定

同日

右大将條 所定條

但行列条より所定

同日

公方條 右大将條 所定條

大行列条より所定

所定條より所定

心





二月

延享二己丑年二月二日

四月廿下

一万石等を以て法よりし事以香真献之致  
斗中、向ふ一付、夜ハ海ハ揚行付、山古力  
山馬代名流をぬり、南月十八日、東殿山古  
坊以使去、以付、九付とし、月一のき、事細ハ  
使去、層斗、月廿、終二番ハ、但政、祥をく

向ハ、殿、用、中、以、後、一、の、き、事、細、ハ、む、を  
事、向、お、付、ハ

石、一、色、一、の、き、事、細、ハ、初、九、山、目、付、ハ、香、ア、を  
五、年、ハ

三月

以、事、付、献、之、一、初、上、香、ハ、但、ハ

延享二己丑年三月四日

左近右監殿

四月廿下

八海山徳行六〇の内

一 十二日首六所ト十号 淨法舎在麻の邊ニ  
精進了申

一 十日十号 十号 太方。首六所ト。聖の由書  
と精進了申

一 尾三 淨法信。首六所ト。聖不。并。徳  
大改。想。卷。下。火。段。及。忘。腹。系。釋。之  
家。来。六。十。二。首。六。所。ト。部。能。一。一。在。加。五

一人内書山後在部中事

一 位。事。系。以。改。初。以。若。八。業。後。一。精。進

南。中。朝。正。以。行。五。也。概。を。首。六。所。ト

忘。指。釋。者。一。下。以。日。中。日。火。年。

一 忘。腹。系。釋。者。世。按。以。用。一。首。八。所。以。と

在。知。以。使。去。上。若。一。

一 付。与。一。每。下。一。八。海。六。一。日。江。り。有  
毎。度。一。一。在。加。五

石、瓶、竹、宮、の、新、向、の、下、年、の、死、九

四月廿一日、乙未年

二月

この年、舟、末、右、左、に、於、て、正、山、の、海、に、概、り

し、言、は、れ、如、く、江、附、年、の、信、に、記、す

一、徳、入、の

乙未年二月四日、左、近、の、監、版、四月廿一日

一、海、の、概、り、中、舟、系、信、前、の、書、出、時、に

舟、系、信、前、の、是、信、と、此、信、と、は、同、一、也

一、各、版、系、釋、の、者、舟、系、信、前、の、書、出、時、に

通、り、舟、系、信、前、の、南、の、通、り、以、後、に

是、也、城、本、に

石、の、在、り、舟、城、の、在、り、舟、の、在、り、舟、の、在、り

舟、の、在、り、舟、の、在、り

舟、の、在、り、舟、の、在、り、舟、の、在、り、舟、の、在、り



二月廿五日 江所年以清之...  
之德谷

延享二年二月廿六日 陸奥守殿 山内侍

於江所年以清之...

二月十日

公方様 御系信 随方六人 侍り五人

同十四日

右大将様 御系信 随方六人 侍り五人

同十五日

公方様 右大将様 御系信

公方様 随方六人 侍り五人

右大将様 随方六人 侍り五人

同十六日

右大将様 御系信 随方六人 侍り五人

同十七日



為一旬之內一准年

右一色之戶部正納北四月付下

三月

延享二七年二月廿六

延享二七年二月廿六

四月廿八日

二月十八日東無山本物一石

以使去計方日隔事例付

延享二七年二月廿六

延享二七年二月廿六

延享二七年二月廿六

一 師之家右軍の智波刑部

紅軍山下小姓朱有

一 此地之人係在口以

一 行列之不在者

向一合事

一 〇〇〇〇〇

一 〇〇〇〇〇

一 〇〇〇〇〇

一 〇〇〇〇〇

一 〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇

延享二七年三月八日

一 〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇

延享二七年三月八日

〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇

二月十七日十八日十九日上

〇〇〇〇〇

名も入る如候に付候

延享二己丑年二月九日 左近の監取 四月付

甲十日 伊予守ノ方ニ付十七日 伊予守

等ノ名ニ付テ候事

但和丸四月付候事

三月九日

延享二己丑年二月九日 東に在る於此に付候事

之旨に付候事 伊予守に付候事

二日

延享二己丑年二月九日

延享二己丑年二月九日

左近の監取

大目付

伊予守に付候事 伊予守に付候事

右ノ旨に付候事 伊予守に付候事

延

延享二乙巳年三月十日

大田町監版  
限後出度

六月十日

八海少部より中相 社中御旨

松平右近守監 書多御旨 大田成守書

江村是安書 林若志平書 世則成守書

駒井 初夜 社尾市兵衛

右より下を洋紙に付外右諸に由る

八海申一役うを洋紙に申す

延享二乙巳年三月十日

大田町監版  
限後出度

六月十日

一 十二日書立了付人十七日 是河とて版解し

若也 概仕り及申す

一 十三日〜十七日 還河去跡と御申書

一 果は 深小袖半袴 着り申す

右〜色は 赤白紙を初九日門に

右〜色は 赤白紙を初九日門に 下を洋紙に

二月

延享二己丑年二月十二日

四月廿日

痔血 鼻血 鼻血 赤く 鼻と 引水 引水

引水 引水

一 膿水 引水 引水 引水 引水 引水 引水 引水

引水 引水 引水 引水 引水 引水 引水 引水

引水 引水 引水 引水 引水 引水 引水 引水

引水 引水 引水 引水 引水 引水 引水 引水

右の書 引水 引水 引水 引水 引水 引水 引水 引水

引水 引水 引水 引水 引水 引水 引水 引水

引水 引水 引水 引水 引水 引水 引水 引水

引水 引水 引水 引水 引水 引水 引水 引水

引水 引水 引水 引水 引水 引水 引水 引水

延享二己丑年二月十二日

延享二己丑年二月十二日

四月廿日

引水 引水 引水 引水 引水 引水 引水 引水

引水 引水 引水 引水 引水 引水 引水 引水

列々不純字一紙、急於了事、  
右一紙、万石以下、  
正し、  
正し、  
正し、

二月

延享二七年二月十四日 渡邊忠俊 四月廿日

廿七日、  
十七日、十八日、十九日、  
白州遠守一紙、

延享二七年三月十日 在道お監取 四月廿日

ハ海口橋の在船、  
慶平月半、  
行本丸、  
能也、  
却、



使去之其夜誠之矣

一 在國在邑之面之ハハ海若所ハ既正水ハ  
已後飛龍之ハ其城ハ既居龍在任之面之  
之面之ハ既正

右之面之ハ其城ハ既居龍在任之面之  
之面之ハ既正

二月

延享二乙丑年三月十日

隱岐書院

大月廿二

明十九日少休其日先少門依龍舟少門依  
之少門依龍舟少門依

少門依龍舟少門依  
之少門依龍舟少門依  
之少門依龍舟少門依  
之少門依龍舟少門依

延享二乙丑年三月十日

隱岐書院

大月廿二

未立言 淨修已物 成於了 而之 乃  
此紀今 亦也 亦及 以辰 之在 亦事 也

二月十日

皆吉 丹之 乘上 右至 於 亦事 以 海 亦 執  
引之 亦事 亦事 亦事 亦事 亦事 亦事 亦事  
亦事 亦事 亦事 亦事 亦事 亦事 亦事 亦事

延享二乙丑年三月十日

後波吉殿

四月十日

二月十日

淨修 亦事 亦事 亦事 亦事 亦事 亦事 亦事  
亦事 亦事 亦事 亦事 亦事 亦事 亦事 亦事

亦事 亦事 亦事 亦事 亦事 亦事 亦事 亦事  
亦事 亦事 亦事 亦事 亦事 亦事 亦事 亦事

延享二乙丑年三月十日

左衛門監殿

大目付殿

明古下 淨修 亦事 亦事 亦事 亦事 亦事 亦事  
亦事 亦事 亦事 亦事 亦事 亦事 亦事 亦事

布名以之... 此能為之... 此紀明後  
正二

所中丸... 城... 中... 右... 左...  
能... 此... 此... 此...

但... 此... 此... 此...  
右... 左... 右... 左...

正... 此... 此... 此...  
此... 此... 此... 此...

此... 此... 此... 此...  
此... 此... 此... 此...

正... 正... 正... 正...  
正... 正... 正... 正...

八月... 八月...  
八月... 八月...

院... 院... 院... 院...  
院... 院... 院... 院...

酒... 酒... 酒... 酒...  
酒... 酒... 酒... 酒...

右... 右... 右... 右...  
右... 右... 右... 右...

概... 概... 概... 概...  
概... 概... 概... 概...

此山書院の上方に釈迦の像あり  
之の如く之を移す中下  
徳入に經中より  
除く

寛延元年二月十二日 佐渡守殿 四月廿日

三月十二日 道新様二面回出急に付お召  
大樹寺同三〇日此法より内務りなす  
此法より今内務りなす此法より今内務りなす

式目守令式徳様は此法より今内務りなす

一 此法より中書結納物急礼法より今内務りなす

二月

右

大行新様 大綱を撰五月廿日

寬正二年十一月七日

經法寺版

七日付

一 未年丁四月 經日光山淨法寺中

一 色式日三人合内奉合下正任白勿漏携

同手候或上籠合或夫 繼持一軒候也

一 方中月以交

一 淨法寺中曾法巧相宗礼修子亦

不友相山以交

以上

十二月

寬正二年十一月七日

四月付

經日光山淨法寺

四月

十二日

卯日

十四日

申日

十六日

戌日

寛延二己年十一月廿日

庚子四月廿日光心

大猷院極下回淨忌山法事廿日淨香菓

白根拵致 二百五十万石 白根拵致 二百五十万石

目 之致 十萬石 目 之致 十萬石

目 之致 十萬石 目 之致 十萬石

目 之致 十萬石 目 之致 十萬石

一 在万石以下大淨忌忌山法事ノ命居之由

いふ白根拵致

右ノ在万石以下ノ命ノ使名磨子自是

後ニ来日月廿一日朔方付止此ノ縁候也

上名候ノ本坊止下名候事

一 在万石以下之文不以下ノ命ノ使名磨子自

守務ニ在同日付止ノ内文殊

樓ノ東ノ方法雲院前ノ上名候ノ本

坊止ノ上名候ノ事







寛延三庚午年三月十四日

水目付上

沖之家

沖之口

江伊家お殿

尾張才助殿

松平如賀守

酒結

老中隠岐守

徳与守

不司代

大板お城代

石...日...之...傳...香...款...

奉

三月

寛延三庚午年四月十日

水目付上

東叡山

大猷院様

行末名行列

水糸清...守

川橋権助

三好権助

小室宗三郎

堀 教子

物取十右衛門

存色右為名之長好之云々

寛延三年四月十日

四月廿日

一 米几方、於東敵山、教之者、之、名、如、例

一 之、名、如、例

四月

寛延三年四月十日

五月廿日

四月廿日

一 此、法、之、本、篇、在、米、之、上、一、口、也、如、仕、之、

一 之、名、如、例、之、名、如、例

大、門、不、極、大、綱、之、條、四、月、廿、日、丁、丑

之、名

四月

寛延三年四月十日

四月廿日

五月廿日

此法寺在佛牙所下西麓之山前  
之平曠之水邊之麓而山之北麓也

己月廿二日

此山書其末右也

大猷院極百回西麓之法寺也  
原出之江階書之法寺也

寬延三年庚午年十月二日

云内如浦坂

此目付也

一 此後口西麓之寺乃在山上之  
台地院極百回西麓之法寺也  
其方之北麓也

十月二日

此山書其末右也

大猷院極百回西麓之法寺也  
此山書其末右也

寶曆二壬申年六月廿一日 四月廿日 任法与及

一 南六月 拉东殿心 有德院 振心法与

中 德院 内 什 是 人 与 却 了 之 在 法 心 是 多 后 伊 加 号 二 之 法 德

一 丁 丁 丁 丁 一

寶曆二壬申年六月廿九日 任法与及

一 是

一 南六月 拉东殿心 以法事 中 家 之 在 武 日

之 舍 内 秀 合 心 之 仕 心 勿 偏 携 同 手 録 成 之

第 合 或 之 德 城 心 然 之 心 之 心 之 心 之 心

一 中 法 事 中 善 法 何 物 尔 尔 礼 法 之 上 之 及

右 丁 丁 丁 丁

以 上

六月

寶曆二壬申年六月廿九日 經法事 四月廿日

一 於東叡山 淨法事

六月十七日 初 十八日 中 十九日 結

寶曆二壬申年六月廿日

五月廿日 淨法 四月廿日

淨法事 結

一 白根振收 五十万石以上 一 白根水收 二十万石以上

一 同 之收 拾万石以上 一 同 沙收 五万石以上

一 同 土收 壹万石以上 一 同 田收 二十万石以上

一 同 土收 十方石以上

一 壹万石以上 土收 拾方石以上

白根土收

田

石一拾萬石以上 土收 拾方石以上

宝曆二壬申年六月廿

五月廿八日

六月廿

是

一 南月方西法の五海 河具奈

一 河具奈の帝 豫系佐年一旬 送法以

一 後法礼の事

一 豫系佐年一旬 而一 進法物名大段布

一 衣主の世装束の事 又の事 半袴の

一 系法佐年一旬 半袴の事 是河

一 以後系法佐年一旬 同大一日

一 大納言の 是河以後 同大一日 右

一 込合の事 右の事 同大一日 系法佐年一旬

以上

右の紙 若手 考文 記 右の事 解

宝曆二壬申年六月廿

五月廿四日

六月廿日

是

一 是乃石以之... 子也... 中坊... 是乃石以之... 子也... 中坊...

一 是乃石以之... 中坊... 是乃石以之... 中坊...

一 是乃石以之... 中坊... 是乃石以之... 中坊...

右... 中坊... 是乃石以之... 中坊...

寶曆二年甲申二月八日

六月廿日

五月廿四日

五月廿六日 送佛已後日廿六日東叡

山 沖吳茶 奉請 一 卷 之 上 白 雲 茶 之 在

之 上 白 雲 茶 之 在

六月

寶曆二至甲午六月八日

五月廿六日

一 五月廿六日東叡山 山香真秋 上 車 以 下

如例 之 上 白 雲 茶 之 在

六月

五月廿六日

有德院 採 一 因 之 卷 之 上 白 雲 茶 之 在

之 上 白 雲 茶 之 在

寶曆二至甲午六月十日

五月廿六日

五月廿六日





浪谷山城	伊丹	功升
浪谷	新田	日笠
土波	每本	浪谷
依田	角南	藤原
能智	石谷	云城
赤松	菅原	坂本
松平	浦上	平島
德川	松村	一軍

浪谷	松浦	德川
赤松	由良	松平
大濠	岩本	新田
藤原	山本	素行
浪谷	酒依	素行
戸田	能合	石井
永井	松浦	中島
田代	松平	土波

石...一...系...事

山名及經	多田新灰	永井...
山由之經	兼山...	林新...
平島...	後合...	上...
子城...	依田...	月...
巨勢...	浦...	多...
叔...	正...	在...
		丸...

巨勢道任

佛法事... 淨... 花... 菓子...

上波下山

之... 外... 中... 一...

寶曆二年六月十日

子内...

四月...

一 龍帽寺

淨法寺 結願口

上方橋

淨法寺 中

左側之橋

淨善堂 水法寺

淨法寺 中 中 中 中

水法寺 中

一 月光院橋

水法寺 中

中 中 中 中

法心院橋

蓮花院橋

右 水法寺 中 淨法寺 中 一 夜 水法寺 中

水法寺 中 中 中 中

淨法寺 中

淨法寺 中

尾法寺 中

水法寺 中

刑部 中

水法寺 中

右 淨法寺 中 一 夜 代 淨法寺 中 水法寺 中

水法寺 中

淨法寺 中 結願口 中 中 中 中

右 淨法寺 中 中 中 中

宝曆二壬申年六月十日

五月廿日

五月廿日

一 某寺 旌幡之寺

河原代寺中寺

山鉦堀ノ後ノ寺例ノ在ノ寺也

六月

山ノ寺付ノ末ノ右也

有德院掃一團山名代ノ寺也

作如ノ江附古山名代ノ初ノ寺也

中ノ徳入ノ寺也

山ノ寺付ノ末ノ右也

宝曆二壬申年六月十日

五月廿日

五月廿日

一 某寺 東廠山

有德院掃 河原代寺中寺

山名代寺中寺

山名代寺中寺

山名代寺中寺

石上社并...  
石上社并...  
石上社并...

寶曆二年申年六月十日

一 尾尾...  
尾尾...  
尾尾...

四月廿...

一 淨法...  
淨法...  
淨法...

寶曆二年申年六月十日

永丹丹位...

四月廿... 淨法...  
淨法...  
淨法...

石上例...  
石上例...  
石上例...

寶曆二年申年六月十日

四月廿...

一 淨法...  
淨法...  
淨法...

寶曆二年申年六月十日

淨法...  
淨法...  
淨法...

去...  
去...  
去...

六月

宝曆二壬申年六月十六日

大坂御殿

山口

宿 栞樂 町人

右にありしは... 命前... 年... 六月... 洋紀... 是... 相... 伝...

此を...

六月

三

宝曆二壬申年六月十六日

大坂御殿

山口

竹... 大坂御殿 刑部

一夜... 代...

茶...

一度代澤へ奉

招平藤原氏

大島出立書

志丹へ送書

小堀七郎氏

田沼直成氏

招平藤原氏

右系信へ奉

巨勢大和守

右生記 河原守子孫へ奉

駒形指大内氏

大島善兵衛氏

己名在江守

岸田左衛門

川井監物

佐北大守  
佐北隆徳氏

一 度 了 奉

宝曆二年甲午六月十七日

源氏 三日月浦友

四月廿日

河原守中

中坊内道氏

岩田平十郎

武田忠壽院

内田玄壽

吉田元平

茶川玄徳

村田長房

森 元棟

河村松房

多紀安元



右派札

尾本長悦

井上玄泰院

栗本瑞之

吉田之長

菰田卯八

菰田卯市

成徳道胤

寶曆二壬申年六月十九

五月廿四日

六月廿

一 河後 存於東廠山教者多、高也例

ふは古誠

寶曆二壬申年六月十九日

五月廿四日

六月廿

一 河後 存於東廠山教者多、高也例

初凡忠仕立、高也例、高也例

六月

宝曆二年二月廿一日

本日付下

今度 天英院様 伊法子申表向  
西ノ方及系信人止又山法子申表  
伊系信人申出仕申上申奉

宝曆二年二月廿一日

任法子及

本日付下

天英院様山法子申七回山忘ノ系信  
任ノ方及系信人止又山法子申表  
上法ノ方及系信人止又山法子申表  
七回山忘ノ通下止申上相

宝曆二年二月廿一日

任法子及山忘

- 一 系信人前山忘ノ方及系信人止又山法子申表
- 一 系源院様山忘ノ方及系信人止又山法子申表
- 一 系源院様山忘ノ方及系信人止又山法子申表



右班友書之 丁丑年出

寶曆三年二月廿五日 任法寺殿 山日舟

廿六日 於坊之寺教之者之不知  
去人 丁丑年 於坊之寺教之者之不知

二月

寶曆三年二月廿七日 任法寺殿

明廿八日 天英院棟 所吳前 所吳前

文照院棟 有孝院棟 所吳前

二天門前在 所吳前 所吳前

江村 還河 所吳前

所吳前 勃顯 所吳前

所吳前 所吳前 所吳前

所吳前 所吳前 所吳前

所吳前 所吳前 所吳前

一 午後五時 坂 今日 伝法堂 及び 法後  
向後上院増上寺 浄土宗 浄土宗  
浄成之けり 還浄之けり 浄土宗 浄土宗  
浄土宗 浄土宗 浄土宗 浄土宗  
浄土宗 浄土宗 浄土宗 浄土宗  
浄土宗 浄土宗 浄土宗 浄土宗

右七の書付し全文に於て 浄土宗 浄土宗  
浄土宗 浄土宗 浄土宗 浄土宗  
浄土宗 浄土宗 浄土宗 浄土宗

宝曆四年戊午二月六日

四月廿日

當月 至心院 撰七回 浄土宗 浄土宗  
浄法談 不五百 浄土宗 浄土宗  
大綱 浄土宗 浄土宗 浄土宗 浄土宗  
又廻りて 浄土宗 浄土宗 浄土宗 浄土宗  
浄土宗 浄土宗 浄土宗 浄土宗

二月

付り申す 浄土宗 浄土宗 浄土宗 浄土宗  
浄土宗 浄土宗 浄土宗 浄土宗

中江徳久時中 了世除

室曆曰甲戌年二月十二日 泣路馬殿 四月十日

一 佛法年中但馬馬如序中

一 佛者曰 大綱之極 佛名代但馬馬如系洋文

但佛廟主系洋文

一 佛南曰 云方極 佛名代若子者系洋文

香奠也係此也

一 同日 出女中級方也為日 同也原中

奠法法不此係也名代了洋紀也

一 同日 出之氣 紅伊寧 右及尾張寧 右及下

香奠法法而下 缺三代係也

一 同日 出中但馬馬 佛如丸 初尾若子

中 大綱云極 佛例先也香奠上地

中場曰 在綱也此法也 中一交系洋文

事

一 中口日光寺の御札 大綱と振

上使若子巻を以て指定とす

一 故一 渡りしもの

右わねは未達の 志之因に忘るる

道より知はる

一 二月

けり申す所の方へ御出立しりし程とす

一 中口御入付御申すに御除

宝暦七丁丑年十月十九

一 朱七十一月十一日六孫王八百二年忌御忌

公儀の御附し、不参りし御札御返しの御

万石の御札に志はる御札の御

右の御札の御

十月十九

この書付御札の御入付御申す

御除

宝曆十二年五月廿七。

松平右近守及口后

是

一 南六月於坊上寺出法中  
或曰三人内易合  
須或雜合或去健  
于月事

一 坊法中  
不友

五月

右

宝曆十二年六月廿七。

一 坊法中

六月



八日 卯日  
 九日 申日  
 十日 亥日

宝曆三年六月朔日

相年右系支度少后

沙香菓献之是

一 白根拾枚 二十万石以上

一 同 五枚 二十万石以上

一 同 三枚 拾万石以上

一 同 两枚 六万石以上

一 同 一枚 三拾九万石以上

一 同 一枚 拾万石以上

一 在方石以下者是是少后之命所上

是方石以下者是是少后之命所上

是方石以下者是是少后之命所上

有德院旅行回内忌以法子一第  
仰好正江附子款之了終止之徳各

宝曆十二年六月朔

是

一 南六ノ十二日山法之志麻 所是系

一 河系法之帝 豫系信吉之面

一 還佛已後相紀より事

一 豫系信吉ノ面ノ事也信吉ノ友

一 布衣之志家東ノ友ハ信吉又ノ友

一 事法之系信法ノ事知ノ事法者

一 是所ニ後系法ノ仕ハ在妙ノハ十一日

一 十四日有ノ用也合ノ所ノ候者考 指子

一 以ノ事法ノ事ノ事

六月



宝曆十二年六月廿日

松平忠系参上取内度

是

一 休事引到法古史中

一 山崎河原山と并山善代河原山と縁系取度  
つし和事 仲日之し事

一 厚く同法河原山と縁系取額つし事  
仲日之し事

一 三河系取度人休事引到名取所

宝曆十二年六月廿日

宝曆十二年六月廿日

引到事

一 万石以上年法古史法取人し法古史

斗しは石取 苗古り 増上寺 佛具系

引到事

一 玉持口糸以と年山普代口糸等一西  
 衣冠口糸南六月十二日坊寺手了了  
 福系口糸初能任一南一父一糸  
 うと縁糸

山口古竹令又控令一との糸思一

宝曆三年二月

以列在糸南一

- 一 沙羅代元
- 一 中太名
- 一 月名法華一糸縁糸法
- 一 奏者出
- 一 法衣史出糸
- 一 右衣冠口糸右力寺一南一了了十二日坊  
 上寺口糸
- 一 右何養付者糸智一了了

この中付全文換合とていふは徳也

宝曆三年六月十一日

招年古系書史版の傍

一 明十二日坊上寺

博信院極 仲良を 仲系法四何故

中付の各縁系引列の宛とあるは心付

仲先は在城所とある

但年取に仕る

宝曆三年六月十一日

招年古系書史版の傍

一 博信院極の所記の如く是れ古書に仕る

如例に仕る

六月

宝曆十二年癸未年二月十日

秋元但馬守成少将

一 今度 天英院極少将の寸表向  
向しふ友多信り申

此四年廿二日 秋元少将より 此と云ふ事  
申口 御入付部中 御入付部中より 申下

宝曆十二年癸未年二月十日

秋元但馬守成少将

一 今度 天英院極少将の寸表  
御入付部中より 申下

二月

此四年廿二日 秋元少将より 此と云ふ事  
申口 御入付部中より 申下

明和二十五年二月二日

松平因防書成之後

是

南二月坊上寺

行果寺

行系信

一 圓持口系以上

行信代口系以上

長冠

中

南二月晦日坊上寺

信系口位部信信口位部又

一 坊上寺

明和二年二月二日

是

一 信系口位部信信口位部

由持口系以上

信系口位部信信口位部

一 信系口位部信信口位部

信目

一 信系口位部信信口位部



明和乙丑年二月

刊列長部

一 出諾代元

一 中大名

一 丁之男法菊之男極致法

一 奏者書

一 徳主之山江人ホ

右取封印續 左刀帯二月晦 陪之方

一 丁長江如

一 右行儀休者小智下江連

二月

明和乙丑年二月

是

一 南二月於坊之寺以法中才前  
式日之合田為合下江儀向偏括同

子孫或能令或健操、以之成之了也  
才司

一 法之中、善法、明和、集礼、法、中、亦  
不友、亦、山、り、り、り、り

二月

明和二年二月

行列

一 万石以上、法、善、法、法、人、法、中

下、在、家、い

山、中、自、全、文、換、令、い、り、在、降、い

明和二年二月十日

松平因防、山、後

一 万石以上、山、香、集、献、い、使、者、廣

中、目、長、務、い、別、六、所、表、い、在、山、名、成、い

方、丈、い、り、在、献、い、り

一 在万石以下之千石以上之田、使者ハ其  
 田目半、耕作ハ口付ハ九付トシ、内、其ノ田  
 此ノ成ル方丈トシ、其ノ田目半、耕作ハ九付  
 一 此ノ田、而シ、使者ハ其ノ田目半、耕作ハ九付  
 八付トシ、内、其ノ田目半、耕作ハ九付トシ、  
 此ノ田目半、耕作ハ九付トシ、

右ノ田、此ノ田目半、耕作ハ九付トシ、  
 此ノ田目半、耕作ハ九付トシ、

有章院、此ノ田目半、耕作ハ九付トシ、  
 此ノ田目半、耕作ハ九付トシ、

明和二年二月十日

松平因防書殿

呈

一 南月、此ノ田目半、耕作ハ九付トシ、  
 此ノ田目半、耕作ハ九付トシ、

是行正後添札

一 豫系伏草中

布衣之輩來

系法行

送行正後系法

二 台身

以分系法

二月

昭和二十五年二月十日

松年因防

一 山香真缺

白地

同 水

同 三

六十万

三千万

振万石

月 抄 抄

方 名 抄

日 抄 抄

方 名 抄

日 抄 抄

方 名 抄

日 抄 抄

方 名 抄

一 上方名抄は是意抄法より命を授け

出さす由法を授

以上

付の書付し末の事

有章院抄の中四巻は法より命を

授けしに附て献てし様より授けし

明和二年二月十日

門庭伊藤の殿

一 南月抄の先正 門庭伊藤の殿

門庭伊藤の殿

四月十日

伊藤

同 十六日

午上刻

同 十七日

寅上刻

甲和乙名年二月十七日

抄年太在物置及少屋

是

一 今夜推日光山山法... 中... 世... 合内... 但... 知... 中... 法...

日... 勿... 同... 預... 或... 繼... 抵... 下... 与... 事...

一 淨法... 中... 著... 信... 如... 外... 礼... 法... 子... 不... 友... 在... 山... 事...

心

二月

明和二年二月十七日

松平大進右監坂山屋

一二月

日 光山浄法寺

初日

二月七日

中日

同日

結日

同日

明和二年二月廿一日

松平因房少及口屋

一 旅場寺

浄法寺

二月

廿六日

初日

廿七日

中日

廿八日

結日

明和二十七年二月廿一

一 南月 悔悟 守 師 多 信 五 所 是 法

已 存 昌 琳

若 名 歟 師 名 代 之 公 例 月

師 名 代 之 也 心 打 出 目 付 出 流 既 斗

右 傳 所 之 也 何 以

但 表 向 流 紀 之 傳 也 師 名 代

右 傳 之 也 今 所 之 也

明和二十七年二月廿八

松平右直 御 監 取 出 後

一 於 日 先 心 出 法 會 付 東 敵 山 師 名 代

系 傳 一 句 之 口 能 之 乞

四月

十七日

口 是 以 之 矣 以 後 代 先 和 歟 大 各  
之 家 諸 流 出 養 者 友 輩 之 方 錄  
類 諸 何 等 婦 子 也 法 名 既 法 物 取  
存 在 所 之 以 任 人 區 原 之 也 系  
法 子



十九日

孝公信世是死後人  
うたふ事侍り

右新書付上七付とて因法古史以上と書  
布衣の面と云法眼と云世宗史  
友と云侍又と云半侍と云侍系侍齊と  
同幣二玉の形と云侍為下と云

二月

右一紙一万石以下の中と云死下と云

お解り

昭和二十九年二月十九日

松平因防少殿少殿

一 明海の場と寺

有楽院様

伊具宗

伊具宗

山内書五付と云侍系  
公好と云侍先  
正徳元年二月十九日

從平江七仕

明和二年二月十九日

松平右近將監及以後

一二月晦

悟止

沖呂

沖呂

伊右衛門

藏田對

石

明和二年二月十九日

松平用防當殿以後

一 佛法寺在麻以寺之西仕、後月

朔、月次出紀之竹、不續居於此

下

二月

明和二年四月六日

阿部伊豫守殿

一 朱十七日 紅葉山 伊豫守 伊出守

伊出守

伊右刀之役 減田對守

伊土雲 赤田出守

伊野 長次之役

伊加 六角殿前

一 石之在平井傳之先格之

日月

明和二年六月十日

松平右近將監及上陸

一 明和二年六月十日 伊出守 伊出守

伊出守 家出守 大出守 伊出守

伊出守 和出守 伊出守 伊出守

伊出守 伊出守 伊出守 伊出守

養年考中多疑也 雲与くうに在り  
石之紙 乙亥年

五月十日

明和乙亥年五月十日

相年太也相監版の後

一 三の家 芙蓉のりい人 玉射 芝言家

法志既月 徳物取 亦在望と改人

明後十有日 物集上 後と書る 乙物也

作片 信惟子 忠務 希く 乙 玉射うま

乙 誠 乙 乙 乙 乙 乙 乙

乙 乙 乙 乙 乙 乙

乙 乙 乙 乙

明和乙亥年九月十九日

阿部伊保 乙 乙 乙

一十月廿

沈明院様之申之由之忌法之申

松平如雲

松平誠智

松平徳政

丹後掃部頭

阿部忠清

松平如春

木中法之申

山崎藤山

一殿之申

酒造

高家

信元

少将若者

右中法之申一殿之由之忌法之申

城

右之申

右中法之申一殿之由之忌法之申

中法之申

明和四年丁亥年九月廿二日

松平右京大夫殿

一 推車敵心 淨法

六月

十七日

初日

十八日

中日

十九日

結日

明末四丁亥年六月廿二

松年大原寺史記

是

一 南六月 推車敵心淨法 中名

或之合内合今 正任 勿偏 榜同手類

或之毫合或之 繩裁 正任 可為

正用事

一 淨法 中善結 淨法 淨法

正心 淨法

以上

六月

明和四丁亥年六月廿二

阿部伊藤少殿以後

一 於坊上寺 淨信事

六月

初日

九日

十日

結部

明和四丁亥年六月廿二

阿部伊藤少殿以後

是

一 南六月 於坊上寺 中家 一色武、主合

田考合、正法、向備栲、同、主、換、或、七、繩

子、於、後、是、了、為、是、用、奉

一 仲法事中善信賜物亦能法事  
不及其心也

六月

卯和口了金年六月十九日

阿弥伊福寺殿口後

一 万石以下老中交配口江在在願口

佛香普善献口口口

一 白紙振收 万石以下 一 同口振 二万石以下

一 同口振 万石以下 一 同口振 五万石以下

一 同口振 万石以下 一 同口振 二十万石以下

一 同口振 万石以下 一 同口振 子

一 万石以下 一 同口振 口口口口口口口口

口口口口口口口口

口口



此口書付し来下大也

博信院極七回山忘口法事し高江

印出之江附多献之し解下しう徳合

明和己丁亥年五月

一 南二月十日 山法之世所 所日長宗

一 山系法之系 隆系供事之由 是所

一 上後如紀うきしは年一

一 隆系供事中之由 是世書物系大段

一 布衣之 主世書来中之友と長修又ハ前

一 半精之系供事分と付知も半精者ハ

一 是所已存系法之仕ハ世所分と十五百十回

一 有之し内 込今之し 續 在考 物止以久系法

一 下之しは年一

一 是也

一 五月

明和四丁亥年六月

- 一 是方石をてぬくは香真缺くは使去條惟
- 子長務を期有時表つてとる成り方史
- 一 是方石をてぬくは香真缺くは使去條惟
- 半務を口付し九時とて内裏のを
- 一 是方石をてぬくは香真缺くは使去條惟
- 一 是方石をてぬくは香真缺くは使去條惟

八時とて内裏のをてぬくは香真缺くは使去條惟

右網の事

一 是方石を六月十日とて缺くはと

一 是方石を六月十日とて缺くはと

一 是方石を六月十日とて缺くはと

一 是方石を六月十日とて缺くはと

明和四丁亥年六月朔

抄本右京大夫殿

冲唐真献之是

- 一 白值十枚 三十万石
- 一 同右枚 三十万石
- 一 同右枚 三十万石
- 一 同右枚 三十万石
- 一 同右枚 三十万石
- 一 同右枚 三十万石
- 一 同右枚 三十万石
- 一 同右枚 三十万石
- 一 同右枚 三十万石
- 一 同右枚 三十万石

此の事付し未だ右  
 名陸院振十七回迄急の法  
 作如しは附年缺之  
 初より入

甲和口丁亥年六月朔日

是

一 是方石以中一初一冲唐真献之使去保

惟子長終之期亨時文殊極在也  
候本坊上之也

一 是方名以下之字名以之、而、使名、隆惟子  
半終之四時、九時、同、文殊極、

東之方、法雲院、前、也、是、名、候、中、坊、之、中、

江右、網、以、事、

一 以、知、之、而、之、使、名、隆、惟、子、半、終、之、九、時、

八、時、之、同、文、殊、極、之、事、方、法、雲、院、

前、也、是、名、候、中、坊、之、中、也、

一 右、之、也、六、月、五、日、之、也、

一 以、之、年、自、之、事、也、

一 有、德、院、極、十、七、回、也、

一 仰、也、之、江、附、吉、秋、之、也、

明本口下、去年、六月、朔、

是

一 庄丁 菅 沖法 幸 左 殿 沖 兵 兼

沖系 信 菅 祿系 信 兼 一 句 是 伊

已 得 淨 礼 了 事 一

一 祿系 信 兼 年 九 尾 不 連 念 持 名 大 段

布 衣 小 立 裝 束 世 友 去 世 終 又 一 句

半 終 言 系 信 持 下 一 句 知 一 半 終 者

是 伊 已 存 系 信 了 法 未 由 一 句 同 古 一

三 二 句 一 句 世 合 一 句 一 句 在 考 指 子

沖系 信 兼 信 了 事 一

心 一

五 月

明 和 三 丁 亥 年 六 月 三 日

所 知 伊 信 兼 信 了 事

是

一 信 兼 信 了 事 兼 信 了 事

- 一 國持口品以平山信代四品望豫系由電
- 口不之 冲目之
- 一 一之同信四品望豫系 勅類之
- 一 冲目之
- 一 之系流事人信事列了古兵公事

心

昭和丁亥年六月三日

- 一 列在如
- 一 口信元
- 一 下之信南之信
- 一 信事之
- 一 右衣冠
- 一 寺上
- 一 右何者信之若小勢

六月

明和四丁亥年六月二十

一 新列之事

一 万石以上年 法当院法役人 法吏斗

一 之長少 南六月 坊之寺 伊豆宗

伊豆宗

一 西指口 西以之 法代 伊豆宗

衣冠 伊豆宗

南六月 十二 坊之寺 一可也

縁係以 父 西以 斗 一 也 縁係以 一

六月

明和四丁亥年六月二十

伊豆宗 伊豆宗

一 南六月 坊之寺

伊豆宗 伊豆宗

一 伊豆宗 伊豆宗

一 伊豆宗 伊豆宗

伊豆宗 伊豆宗

山一撰下其後也

但表向如紀之序

淨名什五海之六八分今所記之

六月

山内書付之末上在也

惟信院種七回也急也法也一第也

作却之江附年也名代一都也之也

中一也 恐入也約中一也除也

明和四年六月八日

松平右衛門尉又次郎

一尚月

有德院種十七回也急也法也山概也

淨法也中一也 山横嶽松平也如也

松平被寄也酒徳也序也 不可也

方坂也城代也山平菓子也山菓子也

一度也山名也山精也明也 山青也



献之

一 右不在立府万石以上者不取献之物

一 此法中在麻也粘是明一以青之皮及

上

石一廻下止取觸也

六月

明和四丁丑年六月八日

一 引列之是

一 万石以上者 法当以法收入之法也

斗一斗多也

一 依此引列 法更斗

一 國特口品以上者 以信代口品以上者

一 由處の外者 引目之

一 一斗より倍口品以上者 豫系 勅額

一 引目之

右家元為人位是列名正也

以之

明和四丁亥年六月八日

- 一 南月 有 東 敷 山 汗 具 前 汗 糸 結
- 一 玉 持 四 糸 以 三 糸 以 信 代 四 糸 以 汗 了 也 衣
- 冠 下 緒 也 南 月 有 東 敷 山 汗 之 緣 糸
- 以 但 初 公 任 而 之 父 年 如 中 丁 也

明和四丁亥年二月八日

山 列 在 也

- 一 山 信 代 元
- 一 一 中 大 糸 汗 了 也
- 一 一 汗 了 也 汗 了 也 汗 了 也 汗 了 也

汗 了 也 汗 了 也

右衣冠下緒也 右刀 汗 了 也 南月 汗 了 也

東 敷 山 汗 了 也 汗 了 也

右 竹 葉 位 者 小 勢 汗 了 也 汗 了 也





藤田伊勢守  
 酒井對馬守  
 富田能登守  
 小堀江内守  
 伊  
 松平近江守  
 永井兼徳守  
 水谷如母守

同十部

伊東山内守  
 松平志平守  
 富田能登守  
 三浦近江守  
 伊  
 小堀江内守  
 中条左衛門守  
 富田伊福守

南の伊勢守

十一日 十二日

高家元  
中家元

名坊裏門通

威徳院

石之色以能に

六月

明和四年六月十日

松平右京左衛門

口後

一 南月 下り 東敷山

所系信在麻

是事已後申株

大納言株 沖名代在し月 沖名代

之色に包し月舟也 徳院斗在株 紙下

紙に

但表向書札之類に 沖名代在株に

之令紙下也

六月

この年付し来る右も

有徳院標十七回此意は法より年

江作部と江戸年 伊名代と新

ととと新中と徳入付新中と右

除は

明和四丁亥年六月十一日

阿部伊豫守殿に

一 明十二日揚上寺

博信院標 伊吳前 此意信也信持

女付名豫系行列し面と未と告知

此先は江城江の事也

但事取て仕は

明和四丁亥年六月十一日

阿部伊豫守殿に

一 仲法事長所 三月末十日 淨土丸に  
想如仕主(台)也例(う)は在解

六月

明和丁丑年六月十日

相年大系去史及少後

一 六月十九日

日光寺の修被相後

坂川三郎去史

中条大和也

右衣冠 中條 丁丑去史の衣冠也

其月

但初一候所より初向階上と信也

一ツは也

一 日光寺門銘に少袖三重

但一重より三層に引合



右ノ外内社ニ如家ノ七少袖一重宛法也  
又ノ面ノ川口奉

一被物敷ハ侯友ノ在ノ家ノ格ノ也  
〜

日光河内弘華宮ノ儀

六月十九日 右田伊豆守

六月廿日 古角誠齋守

石衣冠<sup>中</sup>終<sup>中</sup>下江赤布<sup>中</sup>衣<sup>中</sup>帯<sup>中</sup>段<sup>中</sup>ノ力<sup>中</sup>也

用ハ

汗後物ノ儀

由良播磨守

長沢左衛門守

前ノ色<sup>中</sup>赤<sup>中</sup>白<sup>中</sup>下<sup>中</sup>布

被物<sup>中</sup>弘華宮ノ儀<sup>中</sup>六月十九日

松平若狭守

永井愛徳守

右田駿河守

水谷出羽守

舟田伴誓書

高木海後書

河井對書

伊東山城書

松平志平書

高木近江書

同書

松平若狭書

舟田伴誓書

河井對書

舟田能忠書

古田路行書

高木海後書

舟田能忠書

舟田能忠書

明和四年六月十四日

松平左近守殿後

一六月十日

東殿

伊東家

伊東清左衛門右衛門守

舟田

右

天印八日申年八月廿六

一 於 東教山 佛法事

九月四日 習 六日申 廿 法事

天印八日申年八月

招平伊豆寺

一 南九月於東教山少住子中家

主合内卷人今之住 勿漏 携同 且 須 或 能

合或之 繼 城 於 下 力 廿 申 年

一 佛法事 中 善 法 以 物 爲 之 礼 法 之 上 友

在 止 之 也

天印八月

了印八日申年八月廿六

招平伊豆寺

一 南九月於東教山

江戸年信 舟橋集 函書付

五五

附 形列在如也

江戸月之 函書付 五五

形列在如也 五五

江戸年信 全文之 函書付

天明八中年八月廿六

江戸年信 函書付 五五

一 九月七日 八日 華官社物之 及 文之 五五

之 五五

江戸年信 全文之 函書付

天明八中年八月廿六

江戸年信 函書付 五五

一 江戸香葉紙 五五

一 白浪十枚 五五 函書付 一 日五枚

五五

- 一 同 正 投 十 万 石 以上
- 一 同 出 投 六 万 石 以上
- 一 同 差 投 五 万 石 以上
- 一 同 出 投 二 十 万 石 以上
- 一 同 差 投 十 万 石 以上
- 一 同 差 投 十 万 石 以上
- 一 同 差 投 十 万 石 以上

此 年 自 一 月 起

海 州 院 標 三 回 出 投 以 後 以 上 各 年 七

作 如 左 以 附 年 献 上 之 初 以 前 之 儀 式

三 月 八 日 申 年 八 月 廿 日

三 月 廿 日 申 年 八 月 廿 日

一 所 者 奠 初 之 儀 者 奠 斗 日 長 持 年

通 函 万 石 以上 以 下 九 年 以上

此 年 自 全 文 之 儀 式

丁卯八月廿五日

抄年序在卷之末

一 卷之末の序の末に 抄年序の旨

活紀縁由ありて事一ありて世界

計り年有全文より説か

丁卯八月廿五日

抄年序在卷之末

一 活紀縁由ありて事一ありて世界

計り年有全文より説か

活紀縁由ありて事一ありて世界

九月

丁卯八月廿七日

抄年序在卷之末

一 活紀縁由ありて事一ありて世界

法印院抄 御長卷 御長法印院抄  
五册(由之) 豫多行列(在) 東之  
法印院抄(在) 御長法印院抄  
御長法印院抄

寛政二年庚申正月十日

一月

春恭院抄 御長法印院抄  
御長法印院抄 御長法印院抄

常憲院抄 御長法印院抄

下之(在) 御長法印院抄

院中(在) 御長法印院抄

石(在) 御長法印院抄

寛政二年庚申二月十日

抄本和名(在) 御長法印院抄

是

一 南二月十日(在) 御長法印院抄

式日之合内若合之十日白得持向  
子類或之能合或能是十日類之合  
このお守り  
一 御法中善結以物為礼法と云  
ふ友お止の事

寛政三年亥年二月十日

一 松平和泉守殿の后  
一 拉东敷心 山法より別

二月

十日 初日  
十一日 中日  
十二日 終日

寛政三年亥年二月十日

一 松平和泉守殿の后

一 尚月东敷心  
孝恭院様 行雲宗 清系信



西村曰京以之并以信代京以之  
西之長冠上卷 南月廿四日東廠  
可也豫美以但新官任之也八文  
不如之斗下長緣系之事

寛政三年庚午二月十日

行列在如西

一 以信代京

中大名

八之官法菊之台極難法

奏者也

法者史之出役人出

右衣冠上卷 右力亭 南月廿四日

東廠上卷 右名如事

一 右何也信代若小勢之右名如事

寛政三年庚午二月十日

是

一 信代行列法者史中

國持曰京以之并以信代京以之緣系

少為之... 行月... 丁... 行月... 事

高家... 友人... 位... 行... 列... 事

心

二月

寛政三年 壬午年 二月十日

一 南月

孝恭院... 行法... 酒... 大... 此... 右... 此... 不... 右... 不... 右... 不...

寛政三年亥年二月十日

引列之事

万石以上并法为改法役人之法也  
史中丁乙正也

寛政三年亥年二月十日

松平和泉守成山侯

是

一 尚月十四日山法又五解 伊豆宗

伊豆宗 伊豆宗 伊豆宗 伊豆宗

是 伊豆宗 伊豆宗 伊豆宗

一 伊豆宗 伊豆宗 伊豆宗 伊豆宗

伊豆宗 伊豆宗 伊豆宗 伊豆宗

伊豆宗 伊豆宗 伊豆宗 伊豆宗

伊豆宗 伊豆宗 伊豆宗 伊豆宗

伊豆宗 伊豆宗 伊豆宗 伊豆宗

伊豆宗 伊豆宗 伊豆宗 伊豆宗

事

定之改二年庚午二月十日

是

一 是方本以之而之冲香真缺之使者  
 摩斗月本修之期六付之文珠楼  
 之正名成之申坊之正名缺之  
 一 是方在以下三子右以之而之使者  
 摩斗月本修之四付之九付之内  
 文珠楼之申坊之方凌雲院前也之  
 改之申坊之正名在附之

付之而之使者之摩斗月本修之九付之  
 以付之月文珠楼之申坊之方凌雲  
 院前也之申坊之正名在附之  
 右之也二月十日之正名缺之

付之書也之申坊之

孝恭院稱十三回是也

江作也之江所本缺之

徳入

寛政三年庚午二月十二日

竹香集献之

一 白浪十枚

五十万石以上

同 五枚

三十万石以上

同 三枚

十万石以上

同 二枚

五万石以上

同 一枚

一万石以上

同 沙一枚

三十万石以上

同 一枚

十万石以上

是方石以下と沙を是の法より

以上

寛政三年庚午七月十九日

戸田兼女正殿口宣

口宣

一 今度於東嶽山

心乾院極二十一回也是山法より中

し色式り之令内寄合之長谷川向満  
携回子須式之筆合繩城抄之  
のむす月日事  
行法の中著結所相各礼法之ホ  
不友古山の事

心と

けの書付の方へ願ひ法之り之を  
部中口語入付初中下在隊の

寛政三年庚申七月廿七日

元田采女西殿口後

是

一 今度控東殿心

心観院柳行法奉了中表向し面  
及系法は是又心法之り在隊 御奉法

舟お仕とせしは又

心と

けり本舟四方へ願ひ法之り之を  
御奉法

中上徳入付程中ニテ在座也

寛政三年庚午七月廿七日

一 於東叡山 山法事

八月

十六日

初日

十七日

中日

十八日

後日

此日書自四方ノ願由法事ノ終ニテ之ヲとテ之ヲ中ニ

徳入付程中ニテ在座也

寛政三年庚午七月廿七日

一 於東叡山 山法事

一 於東叡山

心觀院拈二十一回山忌

湯法

三ノ家元

法元

山奏者書

右山法事申一箇乃何

沙椽爍

いふを 陣い

右いを 陣い

けの書付の方へ候山法事申し程迄とて

御申上候入付御申上候際い

山法事申一箇乃何

いふを 陣い



以是若也

春三月二十一日 亥 九日 沙城

十一日 亥 傳

春三月二十一日

春三月二十一日

春三月二十一日

